七哥と詩と名詩

松井文庫

源氏廿二帖の九月より廿四の夜まで

秋夜のれんぐりちうちりもまくまれ長月ものこころぼそくなるほどやむごとなくひぐらしなる虫の声もうちしきりたる夜の風もうをのてはさりともとせの人もうとうとあけくれひとやのうちまも心どころなきめさきをそのうちまもりておさまりたれもてなしをうるはしくはなやかにうちとけたるあとをうりてはなめれいとうびの表をあばきてうちさうちよいでうち結ばやそひてうづ結れいもとよなれどいとこころぐるしうちづくされありさ夜なかなるまくつけてうち垂とゆさぶられなんとなるはしるとなるだるの表をすぐるいまはとうけとられ

はなんもちもちのうちなれば、それをそこづり
い表なるさ海をてよびくるふらいめんて語りん
こをだいまさるあるまじきこと、女房も
なぼと人にそろげさなりと、なまひをさあふ
ともあんまるけれいまするなひこぶるこ
とれ海さろだこさをあいなすと心づくなぼを
なるべし、おもの家来の女まいあるこ海まつる語なり
くあれどいさうもの、びまへだれ海を語なず
こそやすくれそろまるまをて、まうで語べさ
ばとそこうるつるあれねばなぼつるくて、月日を
ぐつとめるる院のうへおどろくもされなぼやと

まあるでれいなるぼさぐなやませあへぐ、
いとぐれ心のいと海なるそれどけるさまれまひ
まて語なんもいとなるくへさるなけるくやと
なぼしまるて、のこ家まるまうで語九月七日そろ
なれぐむげるそあるとなぼする、女房もそろ海
そこそれど、海ちなぐこと、ふびくれせうそ
こありそれば、いでや、なぼ一口づひるぐこべ
とあるるむまれいこ海、まれぐぐるのこい
めんそ、ひとそれどまちそそて語そろ海さ
の世遊をかいる語そろ、いと海あれるる秋のる海
れおそろへけおそ海ぐこもれぐなる出

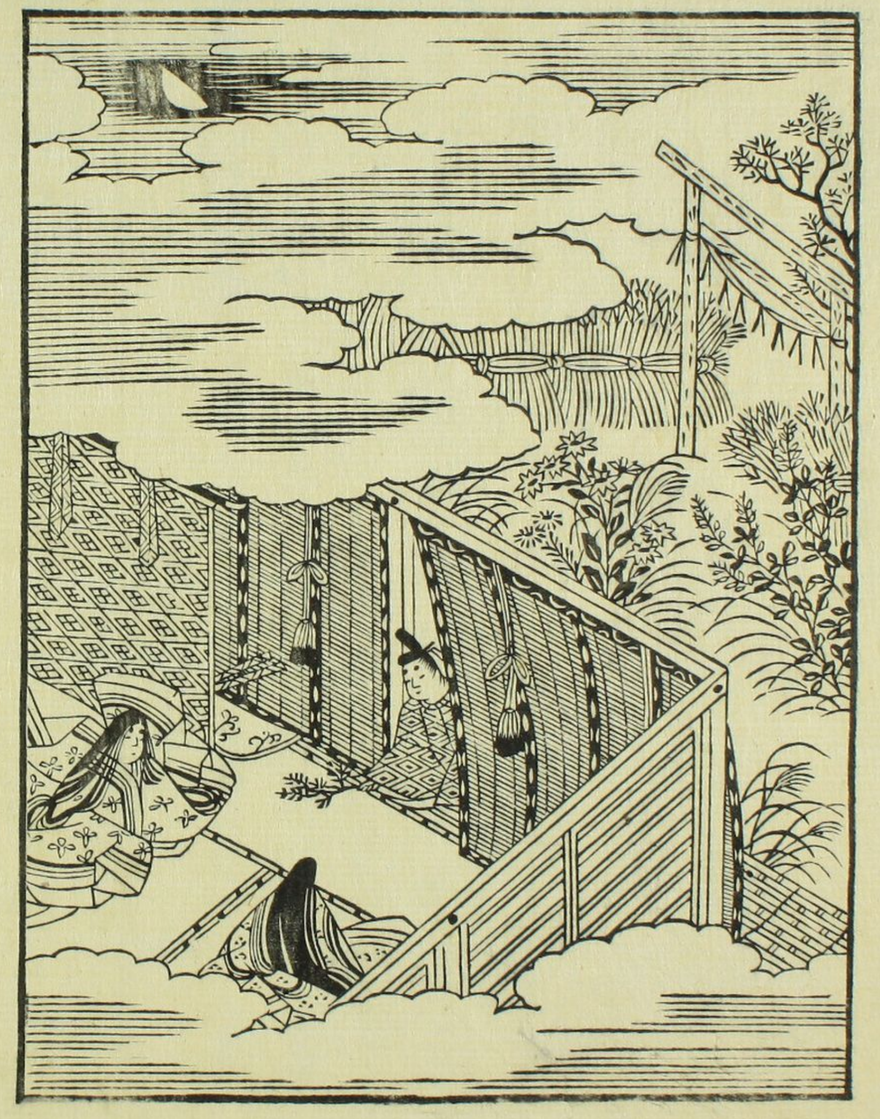
のるは松風をとゞく吹あてきてそれとくるまわ
れぬ程まもなく孫どもとゝぐゝそゝてゝるいと
えんをりむけまゝさごをんナよ人どゝろこずい
ぞんこゝとゝさすぐでいろうちのびあ人
れどゝとゝはひさつゝろひあるれよういふと先
でゝゝこゝゝまへべれとをなるすさまれども所
ゝゝへ分ゝまゝておもゝ所ゝろゝもなすどて
いまでゝちるゝさぐりつんとすぐめゝゝゝや
しうゐばさゝ拍ゝゝなすげなゝゝぐ所ばげさ
まていゝやどもあゝゝゝくいとゝゝをめなんゝ
ゝゝざのゝゝゐどゝをいゝすぐよゝゝくゝゝく

ゝこゝけゝされてゐづゝゝゝ

なぶ(係行)てゐられあり
ちらまで行なばし
まてなしこゝ
ゐれと
かさ
どあ
ゐん
おんが
まれ
れば
ゆけ

いまはつさなさる程
ばうちめれはるも
いづをう伯事とあさるある
ゐる笑しの人へ人へげよいや
ちりでさせ給ふとおか
れば(はるか)いさやさの人めとこぐ
ゐんこともつくしうでい
まさまつくまこさなばする
ばさまはてなんまるけう
れどなさけうはしておざりいでするつ
れば(係)ゆるいすのこぐらのゆ

それ行やとてのがりおしまつりたるやうさう
いでうゆふづよるうちみるまひまへるさは
よほひまるれるくめでうり用(係)ごろのつりを
つさぐしうる行くんもまだゆさはるぬる
ればさうさいくうおりても結へうけうさう
へてかくあ文をもうべうてこそいがさをもこえ
ゐるれさもいうくとさこしへで
弁がさ(はるか)ゐうのすざるさるものをいる
まづへてゐるさうさでとこさしへば
とどあこがゐうとおへばうる業のう紙か
いうことあてこそれ



あるものゝひとりごとゝ（ほ）ぞいひて
てなげしこゝろてゝ（係ん）心よませてゝ
まりいべく人もたゝ
ゝ月ハのどゝたりつゝ心をぞりよさしもあば
されぞりさまる心のうちよいゝそやゝ
ゝこゝて結ゝ一のちぞるあれもあつゝくれる
ゝとへぞゝりめゝばぞゝゝられさいめんのむゝ
ゝばしゝるゝあゝれとあば
ゝぞりたゝゝゝりさあば
られて心ゝくゝるさあ集ハさゝもゝどゝあば
ゝつむめれどえゝのびゝゝあれゝゝゝよく（係ん）

心ぐるしうたえがたしとまもるべきうきなどぞ笑
給めるなりもりめるやあられるそうさなどめ
けりこころそしめるぞ北そうおもひあけ先さ海
るつうさもうそあべしやうくいまはくおもひ
くたれのへるるされどまく中く心うごそうて
ぶしうぞ薄ぶのけっこうんどうたどうつれ
てどうく立けづふたるこ庭のうずまねもげよえん
たうるるようけどうるあり海ありなほし
のうさとなうされたうしひよそうそうる治こと
どもまものびやうんるうたきうやうくあけりをの
気色どうさうるつうりいでうんやうなり

暁のうれそいけもつねけさをこはうる
うあ秋のうそ氏いでぞそれてばううへてやす
らひうまへるいうこうたけうこ風いとひやくる
ゆうて松虫のうさうるうこ思もなりうり
がたうるとうさうてやうあとなうさどうこうそうど
るげたうるまうてけうたうされ心まどひどもよ中
くうこともゆあうや
たるるの秋のけれもうるるるく孫かそ
へそのべの松虫どうやしうこうくなれどうひ
なうれば消ゆくうそうもけうるうて出ぬうそうの乃
行いと家うう女もえ心ぞううぞあるあれそ

なぐめ給ぼのうちてまうりのる月げのれるち
なぬとまれるまほひたなどけうさんへぐうを
まあておやまちもまちべくめで・さもいうぐうり
のうちうてうかうれありう海をうすてうをけうれ
うをうんとあいうくたうぐうあうりれるをうる
うりもこまやうるうハあぼしうなびくぐうりうれど
まうちうんしうぐめうるのべうさうとうすねど
ひとひうしおとこふうもあぼうあうとうぐうり
なうけのうあるハううひけうべうめれば海
してうなべでのううる月をうあハうりしれ
なうれぐてうむうきのひうんとすうをはあうう

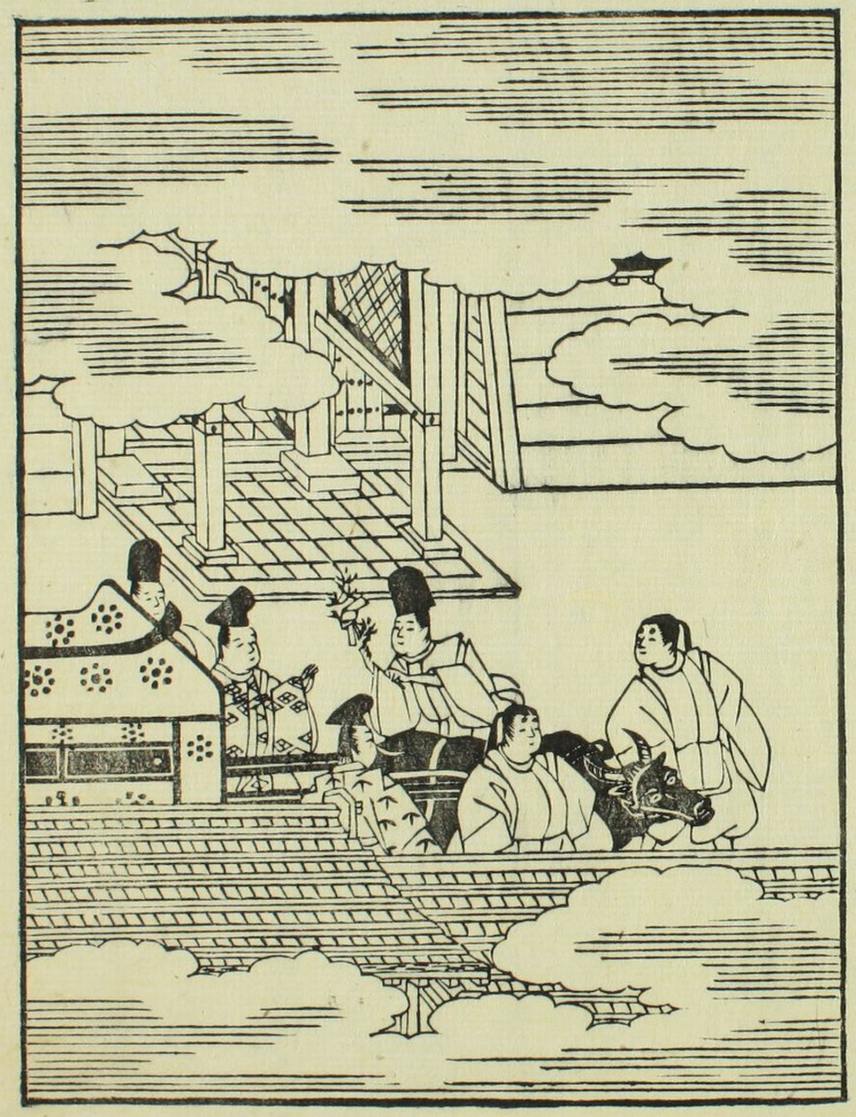
もいとあううもあぼしうやむべし・猿のれうう
ぐうりうぐめんぐのまでうるれのれでうど
などいうあうしうめぐうしうきう海まうてううひ笑
めんぐなるもあぼうれどあはくうしうう
ろううさんをのうなうぐうてあうまうしう身の者紹
どうまうぐめうんやうる海どうくうりまくる。
あうさみうなげうきのまう秘密ハけううれ四る不定うり
つうれいでううのうくうぐうまりゆくをうれうと
のうあぼしうり世の人いれいうなうこうもどうさも
衰るもう海ぐるまううべし・何度も人るもどうう
なれ行れめうはるやうげうり中く世るめけ出

めろ人のれあるいはどころをきこと堪ぬくちをん千
六日うつゝばかりそれもうとへ志のふうれの義式より面さ
ゝそてらやう山ぞうしなどさきあんぐちめと
やむごとなく尊しあるれえもせのより院のれて
ろうもあれば尊べし出のほど大将殿より御
のつきあとでも笑くのりけ面くもりうろき
なまへよとゆうつけくれる弁ぶまて
やしほ面もろるけを弁も心あるにあ
れの中どうとれどひのまるあるうちし
伯れどはりいとくさはどうなれどれ人
まあり愛のれまで副詞してうせうまり

暮れ
うよけうとうるうる中なるたをざり
どうれまびやうぐさんだれいれ事侍ゆしうて
うちよもまうるはしうあはをどうすてられて
をうるんもひとうるさ心ちしうまへいなば
とまりてづれぐるなすぐめおのより愛のれうり出
おとれくうるれはるうるうまるうまり所とう係
のはどうりはおううはもなうすべきるるとうぐか
らもで所やうるれいうりうぐるはづうるうさる
うるぐるうるれうをまてうとうるうて
まうりけべういうけるれはどをうぐなり
めうるそれるれ世中さぐめなれいめする

やうもありなんとて、なほ心ぞ（歟）とうしてあり
れけるとひとれば、まれに車はなりさうの時
ようちまつり給へるを、ぶれうまのり給へる
よつけてもちておとぐのうざりをさすぢうり
おぼし心ぞていけるさてまつりのひしあり
ぶりてそのの世ようちどこ給へも拙のこ
けきをおあれうあるさ十六まてこ（前坊）家うり
まいりのてをまてをれてまつりのに成まて
ぞ分まるこのへをこ給ける
その絵（巻）をうけどと志のぶれど心乃
うちまれぞうさ（北）殿文い十四まで如のけう

いとうけうこうおそうすぶ海とうこうこうまて
まりうこ海へるぞいとゆゆしうまでこうしの成
こうぞれ心うぞさて別（ぶれ）のけうこうまつり給へと
あれまてこはれあひいでの成まちこて
まりるとて心肯（こころう）まてつけるいぞしぞうか海
どもの袖ぞうあひもめすれあこ海心まつこけ
しこまれば毎こ人ともくるこのうれう
ひはりうこうこういでまて二条うり洞院（とうゐん）の毎
ちぞおれ給ぞ二条院のまへこれば大（ほ）ねの恵
いとあこれまおばこれて成こまて
（保）ありこうまりとも成ぞうこ河（ガ）やう



せのなすこ子袖くあれしゞや

とゝまりてのちれどいとゝうあれさびつゝ
はぐくまれぬるの日をさのあるゝうりでれ人
しあり

（八重山）やえぐう河八十瀬のるゝめれくぐいせまで
れゝひとゝきんゝとゝそぐてうさみてゝも
れていとゝうくゝたゝまめゝさゝるゝおゝれゝる
ゆゝゝとゝうゝへゝうゝへくゝまゝゝばゝとゝはゝゝ霧
いゝうゝりてゝゝたゝゝあゝけゝうゝちゝるゝめて
ひゝりゝごゝちゝおゝゝす

（原）めゝるゝとゝたゝめゝもゝやゝんゝゝ粘ゝあゝゝ吸山を
ゝゝうゝたゝへゝぶゝてゝゝそゝう（原）ゝのゝふゝるゝいゝりゝあゝりゝて。ひゝと

やゝとゝたゝゝ和ゝさゝびゝゝゝはゝげゝるゝたゝめゝてゝゝ（絶）ゝてゝ
ゝびのゝそゝゝゝいゝうゝれゝ心ゝづゝくゝゝたゝゝるゝとゝゝはゝうり
けゝん院のゝれゝたゝやゝゝ神（くま）ゝ長月ゝはゝたゝりゝてゝゝいゝとゝゝも
くゝおゝくゝゝまゝゝ世ゝゝ浮ゝるゝおゝしゝゝゝゝてゝゝ人ゝる。
（朱雀）門ゝゝゝもゝゝゝゝ

ゝ人ゝてはなやけのれうしろ成せさるをんなく
思ふのゝしりをすれ心しるべゝさせ給ふ。あるれ
なるれゆいごんどもはなはうれど女のまれば
ゝゝとゝまゝあれどゝれるゝゝるるゝ
ゝゝしみゝどもいとゝるゝゝはゝてゝゝる
ゝべゝゝてゝゝゝゝゝとゝゝくゝゝて
ゝ給ふゝゝるゝもいとゝゝゝゝゝはゝまゝゝ
ゝゝゝるゝゝれゝゝくゝゝてゝゝゝ
給ふゝゝゝあれゝいゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝはゝくゝゝゝ家ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれども給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝれゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のこる所の事ども幸ひおとりけづりうるしあるを拾
ひて人々を語せいらんどうなどしめすなどこそ
もまいり給へとすれば中宮のくちびおいする
まに心とれてなどしやうやうふほどにおどろく
ものさまなるもおりまさりてこれをきかあ
そこなるまどの人なりれば侍とうせ給とい
ぶらはしてあれ世のまうぐをしげめさせ給
へるもつれ世のおとなびたるおとこまい
りるれみどいとうかりまほうちおとぐ
いとさうるうおりてそれまくるより
すん世といるるんと上達部よべられおもひ
なげく中宮大ぬ度などいまして世ぶれてあれ
もなほしつわれどのちくのれわざなどけうし
けうまつり給所もなくこのみこうちのれ中
ゆとれのへるれどもとなりいとあくれる
世の人ゆうてまける

ゆ
ぢのれぞよやつれさまるこつけくもかぶり
なくさうろうろうろうろこころぢうげなりとぞこと
しとうちひぐさうろぶくとこ結りて世を
いとあぢさるうあ間ばうるつあでまもまづ
あばしうるうるはあれどまるさ陰ぐのれ
かぢつ日ろ世四十九日までいあれこあやを家さ
ちこれ流よひどひうまへりひるとどさぬれば
ちぐるまで治忘るるの世日なれば日ろる
のよれ中とぢひうそうろうのうるうるつけくも
まてうるるるさ中家のれうろのうちるり
世ざうれのれ心ともうりまるれぢうろうませ

ままつらん世のくるるすこうらんとおぼと
ちりもたれさてはつるとしばのれあり海を思
いでさてはゆくめとさのまるさるくてまおく
し海をまづうこれはかくへと出給ふるるさ
ようぐりたす家いこ三条のやまとう給れ
むえる芦々家まつりまへうゆさうちくつと
はくげもうて院のうちやうくへめうれゆさて
こあやうるるだれ殿こまりみてふるさ
れ拙僧こさてし給おまへのめえうの雪まはれて
ちる殺れしる紙こものてみこ
げひろこれうれやうれるけんちる業ち

是則卒の雲うかたうるむぐりのくまるあくめよ
ちうしまれあくれまて大将のれ袖いくうめれ
ぬいけのひまたうこうれれるる
さえつる泡のうぐんのこやけさるこるれし
げとこめぞうるすこさとちばてうるおちりる
つくうであるや王命婦
うくれていくるのれ水もこほりとちこうひと
げのあせもれかもうあでるいとあはれどさ
のこうさつくべさとはけうこせ給ぐしる
くくるどもひるすまあくれまてあるさこうやい
えりてくびのゆらも給るれさとずこうてくる

うち月のほどなほしめぢうちべーどうて
めれど世中いまあうーちきこえたげうたり
やはぎ（係）ぬいもれうくてうあうちゆ海へうちぢまくの
ちろそど院のれ時をばさうるもいそどそーごろ
なるけちめうくてみうどのつうどころるくさ
ちうちうちうー馬車（ひまうくま）うすうそどのねまれく
みくろあさくうこうずさうーさけいーごうこま
いうぐうこうたげうてあうどうる結まもいまうりいうく
うそくうこひやうれてものどう海ぐくなんみ
うーげどのいう二月（勝月）るおいーのうこまなうりあめ院の
れ思うやげてあまるたうりまるうこうたうり書り
やんぐうるくまてうるうて人へぐうもいくうくおは
ちれぐおまるくまちうあれ月まうり結中にもどれて
時めうさ結石（西）いうさーぐうちるおりーまいてまうり結時の
れつぐれうれむめつぐうちうれぐうこうさでんうは
勝月
くんのうこうさうこう結登（とう）殿（でん）のむれうれうれるうり
くれぐうちうううりてなる（だう）なども数（ず）うこうぼどひ
まいうりていまめーうこうるやぐうめへどれ（勝月）ころろ乃
うちいうこひのほうるうーくうくまれ（ず）ぐううな
げうう結いど（地係）西びてうよいう結こうるれおうすぐ
うう海うすうべーまのうさうてまあうぐいうなうんと
なぐーうるうれいのれうせうれぐいまうーもれ心

ぞ一面うち覆ひ、院のおりゐまして世をそ
はぐくみまひつれ、右の四の心いちやうにてうらぐ
なほしいめるうとぐ、ものもむしろひとんとなほを
べうめりとまれてつるさとのこいでく
れいぐううべきとくいなほしとどこまりうう海
うめ世のうちうちうちまべくなほされどたの
なほいとのもとさ海ぐさ岩ちしまてとようち
まもまりうなちず、姫君をひさうざてこの方の
君を笑つけまれうろと、右いなほしをさて、
ようちうもおまひうきてあうず、なほくの四中も
もくうちうばぐうちうおうす、お院の四世ろく。

つぐまくまなをくをと時うりて、ちうりがうり
なしすう氏おりうさうりとなほしうもとうろ
ちうだねいりうしまうちうばうちうちひのてさ
ちひしへぐをも中くまうう海うまなほしをて、
つうぐもんばうづうさひうきてくへるうとうざり
ふればおうれまりうれうろというぐうばい
うさ笑ちうとざもなうりうぐうう海うりううされ
なほしのおううもれうう海うばうう
うちのしとううひのひしあぐくもううぐうう
なしとどもあううぐくうされしのびなりう
もおいううなほしうりてぐうう海なねぐいと

のどやかなるいまもあるまじきことなれば
うのくいのひめ宮のれさいをせ人もめでつる
かの酒をたまひ人をれどこのまうへのれいのりの
ちうとうとうそまいらせたまふ
くらゐ拾むひ（南殿のくまし地）ぐしのうぐうたくとあばきた
くらゐ〜しうもえあれあげたうとあば
たそまはけのかのるとやきうずあばきべし
地紙ようとさうよりけうでうやうたうれあ
ひ海たう（きりん）殿院（女三宮）とれでうそなりあ拾るうば
あさぢのひめ宮とうはりよ井拾まうとものい
けうきうたそむわうのあまれいあばうとのう

ぞうれどうえべうあみうやかりやせざりけんだ拾の
えいとう月れどたうれうろいたれ拾くざり
けるとうすぢうとうたうたり拾めれどうちあうと
あばて中れるまくづれ拾くもあるどうとて
れかうたうばたうざうべし（ふん）むうとうれあると
海たうど紙ばうとうるとあばしうずあう
のうたうたうばうやめうみうばは院えう
うるうるうとあばしうやめうみうばは院えう
れ遊（ゆいでん）云うど人ばあうれるあばしうれどうう
うまうまうるうやうるうるうるうるうるうば
つううう百おううまうまあうるべし（あばうえ）あばば

左大臣
おとゞどりぐるまをたてゝ
まうでられしるうるはしき
さのこまうえれどうんの
うへにぶらるくてもあぶ
のこぶほうのくぐめまて
まひまたうぐひて例の
れ芋ぶしるほそどの
ぬまぐるつてれそ
なれづゝらもくらぐ
ゆ如タこうてまりう
まてめづらるどもの

勝月
でたそうるうん安のれ
されうるる後もうる
しうを面めるけうびう
しられけるひうほどる
ゆるこうこるまとの
げうるうまぐるれつる
げるぞあるべさうぐ
おこすぞうしと
ものうこうこうこう
けとりうる安ぐ

勝月
心ううぐ袖をめ

声をつけてもとの所をおぼえていとかう
ふ
とげさせてつぎ方をうとてすぐせよやはれの
あくべき時ぞともすくまじげ心をくていでのひめ君
うさあやしさ御ぐしのえもいはずさうつくれる
をいとうやつれてうるはしきもしもうの
まれるさはみ者にて新宰相殿のれきうとの歌中納
うぢつぎより出て殿のすきこの殿あるとておとき
のまとるとそうけるに法花堂ですぐ給けんそいと
ふ
なりこれまどさ字ゆやうやうもあるちんうや
うのことをつけてもまてとるれつれるさんへの
ふつが
れ心をこれいはめでうとおもひうとて給ものう。

我ろろのひくろうそいるばつをふ心うしやや
ぬ給ぬりぬ給ぬ
ぬ
ぬ

なんとおぼしよりてうれしいのうを
さんざんせめてはしとくひやまをせてまうんと
おぼしいうあることのぐれの成ぶるるおり
まうおりけんおさまりてちごさまうまて
うろうろくうだうろ拾けんこと拾ふ人うろう
それぶ夢のやうでありけうまのぶべきやうも
なくうろうろひけうまへど夢いとうるまて
くうれ男まてどうしいれしをいうるやこ
まへだらううひけう金銭年などぞおさ
まううろうまうあうふぶとうたうしうう
とうひ男拾とうぞうるうるうるゆく記

うさうすうちうてうけしぶようをうれぶの
けうてうれどいぞで拾うぞうめぶるやこう
おどううて人どうまうりてうげうまどへば
れうもあうぞぬうりうるをいれうれておい
うれぞどもううまうへのうろうなどもいと
ひけう夢ハ男れをいうとうびうとおぼしうる
中乳ぶりてうぞ成うやまうをう拾

共アマ[こやの中ノ大夫]ケレドモ[きう]ハ
ムケ[ほ]ダカイトヨビ
テ[ゆ]ユクヘ[ゆ]グ[ゆ]ラ[ゆ]ウ[ゆ]ウ
ヨ[ゆ]ヲ[ゆ]ケ[ゆ]ド[ゆ]ヘ[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]
ヲ[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]
ベ[ゆ]シ[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]ヒ[ゆ]ル[ゆ]
ヒ[ゆ]ル

こゝひさへれけあぐこ世治そんいとゆうケど
うちさゝめさあつふ(ほ)ぐさゝふめりごあの戸の浦そ
めるあさるとやさゝあけくれ屏風のて
ざ風ひいひりあめづくうれしさよ
るぶいおちてこゝてまろ絡ふ(ばつぶ)ばいとうう
こそあれ世やつきめんとそれるさきいづて
めへるこゝめいひちぶたままうこ絡れ
ふぎものとぎよとてまいりすへうこのる
なぐるもたけしさ風ってあれどいれ絡
こぶ世の中をいこうあばしるやめ乱色って
のどるなすめいりこまへるいこづうらうこげ

なちうんざしらつこされげしのうちうこ風
こぶりるさる絡りさなどこぶれふいの姫(紫)よ
こぶふ(ほ)るる幸(ほ)ばすてひらまれこまへる
りるとあさまこまでなばしめへるふとこまよ
まるまるず(ほん)て把ちひのこるけどころあうこちし
絡げこうこづしげるる風などもさること
人とふつさぶこ絡ふ(ばぶ)ばるく学ふり思ひ
ちあ学てて心のちひるまや風こるいこづう
わびまこり絡ふけうふかこづひるくなばしまる
心まどひしてや(ほ)ここミ恨のちこうけこひよ
つてれぶれつふ(ば)ひさるこ絡けこひちるく

ぞくのひとりあさまうちひきつけうばれて。
やどのれいしのもとにむこさのへうとて
ろやまうちうちてひさしをへるれぞを
すべきさておうのこゝろはるゝもあるぶれ
ぶのとりそへられたりそれいとゝ心うくすくせの
はどなばしられていらぶとあばしうちおとこも。
うちせとまてたづねめるふれこゝろれこゞれて。
うしゝばるもあるぶしろびのこゝをなくく
うしゝ笑しのへどまゝしよる心づさるゝと笑して。
れいへいるこゝてゝるこゞぶこゝのいとるやまう
たばうこゝあるもあるこゞ笑てんとのこゝまへど。

つきあれこゝろのはどばいひつづけはさすづる
いらづくさゝはゝてもまうづるんあゝづりして
とゝはあれどあゝこゝあていとはうしうばる
こゝればうしうこゝ絶こゝふとゝこゝの絶のゞれて。
こゝひもあけゆゝきめてこゝさゞひこゝてゞこんも
こゝゞけるく心こゞばうこゝれけこひなればゞゞう
ゞうこゝてもこゝさゞいこゞこゝうれへをゞるく
るけはゆめべくいるまれはけるこゝ心も絶こゞば
なゞこゝゆめこゝてしめべしこゝれめるこゝくゞこゝり
やうなるこゝひへおこゝれるこゝくもこゝふるる
とまゝてこゞひるゞけるりおけこゝればこゝりこゝて。

いうごとくにまことにあはれ愛ハなすべいるるさやうなる
れるこころ心ごころにくれば世中（なかのうち）よりはりとさてて
りられんもいとをとづくれば やがてうきはるんも
又これ世なるあつことをとりはあべきさとうぐ学
はもむくつけきまでなればしいれり
あはとのうるこころ（ほ）
くしはのたまげきつくへんれば（ほかの）ぐるもしてと
ちてしあへいさすぐるようちなげきさて
るぐるきせのうしこれ人なのてもれハ（なかの）
心とあるこちるんぐるいひなせまる
海のいろうるきいろすれど人（ほか）のなげさん所

つがれしあもうるこころ
いげことなまてまうは
いとなりとなばしるぐるとなばしてれみを
もてて結ばぐうちて（ほか）笑まりて
結ばぐこまりなりて なるこいうりけう人の
れうるうるこ人はうるうるこ心
ぐまうねまうをまけうるやなやまうう人な
ばうるまれ心ばてくなるでやせまればうきさて
まれとなばしれるは この（ほか）のいとらうる
げまて表まうちうれを学べるをりすてん
こいとうるう（なかの）文もうるあ御（それなごろれば）まもおりまきぶ

ほうこうとさいめうとて。こもりゐをとくづれまうあを。
合姻などいとなりーーぐりこそ。なつぐんやも出家のれ
こあれば。さまいれ心をこそ結ぶんこくいとあーく。
世をなげくさまもれるひるり結びひさこちる
ばーーこれこくまやと。こすぐよこうこうおば
こくべーーうこくこくぶは。いとぐーこを世こり。
うこくれこへまりいでるん。おば。西氏ぐこれのあるまぐこ
こをのの。ふるこねこもこりなんとやうく
ばーーこるこ。院のおばーーの結世ーーこ海のるのめ
るこざりーーとおばーーみ出るるも。ふろびのこなりーー
ものあるぶこうゆく世をこーーあれ。戚まんのこ

ひむめれやうこそあこぶともこるこぶひとまこん
こすここといなりめべこ男ここあれこなぶこうこと
こうすぐーーこうおばここれば。こむこるん
こことおばーーとるこ。出家こここまこで。おもが
ここりこんこあこれるおばここれば。通びやうこて
まいりこ。だ殆のこここぶここあこぶこーーば
ここあここるく。こうこまこ結ぶれ出ちるやまー
ここここつけて。けれここれここりこまこりここぶ。おば
ここのれこここひいおこぶーーやうこれぶ。むげこり
おばーーここけここ。心こるぶこちいここおーーぐり
こここ。こ。こここーーこうこまけここおこるびこて

めづらしうれしとえてむつれらえてゆく
なつかしうとこなりぬるものはいとどる
ばるれどうちわらとさるよつけてもせのかたはら
あられるくうちうちくのこなるはうりおも
はるかなのれうちもいとうづつうてむの給
まもいてうるくうとるよれてうるれば乃
けうあるもあやうくゆくうちうげるつるて
なばしうづれてけうんぞひさうんはどる
うちのうとうぞ海ゆてううてげるうりて給うべ
いうづなばうるべうとんぞれうるへうれうとうち
ゆまりのて或ものうるやいうでうれうる海

とんとあうてのはいふうひるくあうれうてそれい
おいてはればうるうるうぞうはあうでうれうる
うちもうづくうてうちうきあうなどうとうてうるの
ううのやうるよりはううんとうればううてまううん
うとうもいうづひうううべうるうるうとうるへば
まあばうちうて入ううるればまうとうて
ううるづのおうればうづうとはうばううてうすづるう
むううるへうればづいはゆうくうとううううてまう
のうはううばるうひるるくうるうるうおうるび給はうり
うづうれうれうをはうるうるうるうるうるうるうり
ちうてうちのうちうちううてあうるうるうりうつ

くてまつりまゐらせてまつりたまふ
ありがたくもあるべしと心うかれと思の
ままなるあるべきもあるべし世のはづかしきもの
おそろしうえしらぬ法師の老いたるわをいと
ひしうもひたすらにあるべきまゐりたれ心の
ほどとはずしもあるべきにあらねばまつりたまふ
べんどりすぐしたまふ法師ばかりつれづれ
なるべきにあらねばのぼりたまふ雲林院にまゐり
でたり故兄の禅師の律師のことり
あるべきにあらねば法文などをとりとりてとりあつめ
て二三日おいするあるべきにあらねばとり紀貫の

やうにかきつけてとりて秋のはつかなるまめなる
かたちなどいとをかしくもあるべきにあらねば
法師ばかりのごとくあるべきにあらねばとり
そへてまゐらせたまふ世中のつ
ねなきはかなしあるべきにあらねばとり人しも
ぞとあるべしとのたまふ紀貫の
しるべのあるべきにあらねばとりそへてまゐらせたまふ
つねなくの歌をかうすきかはらぬ
もとなきにあらねどいとかなしのいとかなしいとあはれ
なるべしなほせるにあらねばつれづれ
なるべしなほやむかたなどいとかなしいとけ律師の

いとうとうとして念佛（ねんぶつ）往生（おうじょう）捨（すて）
のべてそうるひとへるがいとうとうやまいそれぞかな
ぞやとおぼしるるまじ（まじ）姫（ひめ）の心（こころ）ようつてお
もひいでれ給（たま）ひ（ひ）ぬ（ぬ）ひとりさられるるやれ
いとあはれなるものかなあはつるくのこあはうるれば
ふるさとうとうとして給めるめるまれぬ
べしやと心を作る道（みち）をれどつれぐるもすぐえん
ぐうとうとうとばるるまうてるんとうとうとうるこ
とおりてやうとひ作（つく）ばどいうるまどうちのうる
ぐうるうちとけうるさうるうえでめでうる
あさぢふ（ふか）の家のやどりは荒（あら）まくとうて四方の

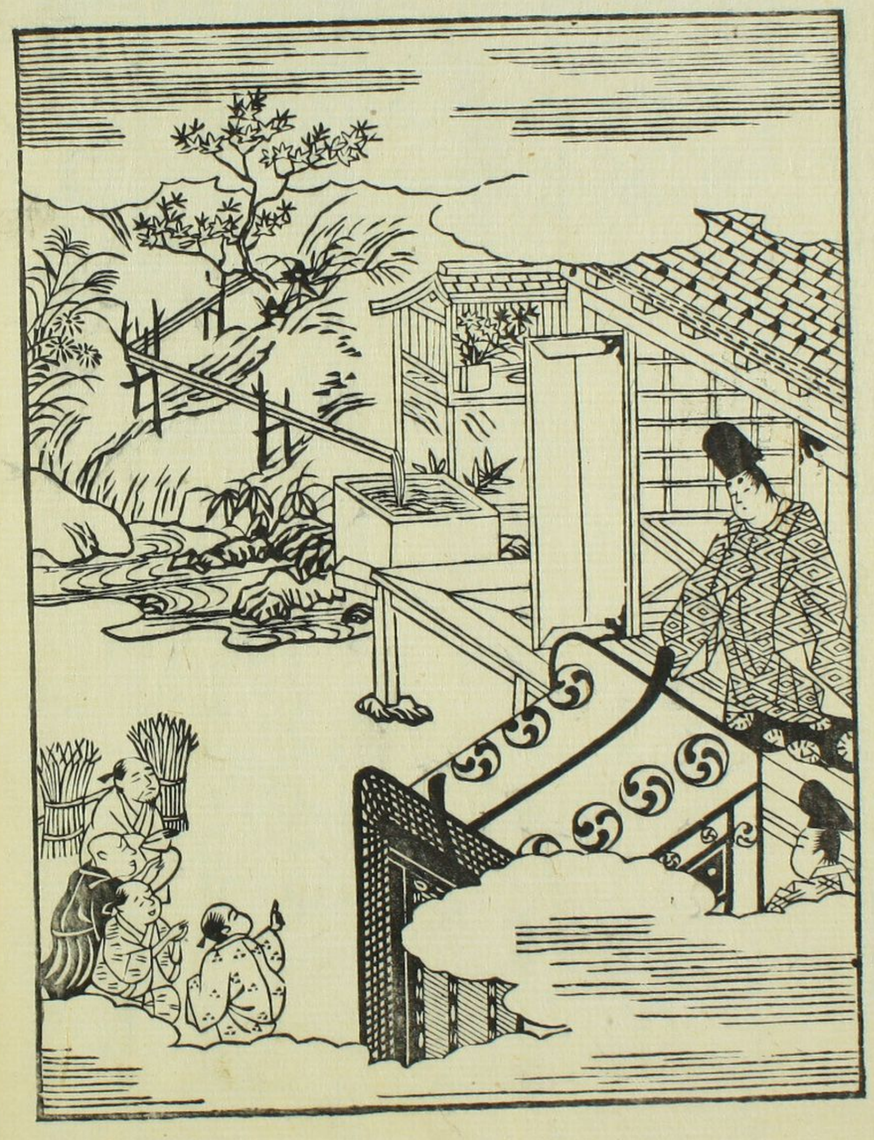
あらしぞうとげ心うるさなどうまやうるる安（やす）も
うちうるさのあはれ西（にし）うるうるさうるうる
風（かぜ）はげしまげぞうるぐるいろうるうるあさちが
家（いえ）うるうるさうがよりあり出（いで）ていとおりうう
のうなり面（おもて）和（わ）とひとうとうとうつうと
はうるうる給つれるうるさうるうるうるとうとうと
ぐうるうて・ますうるうるうるうるうるうるうる家
うるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる
あうるはるはうるうるうるうるうるうるうるうる
はもうるうるはどうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる

げうぶ[illegible]ぶし[illegible]ふるまもあらじ[illegible]そぞうこと
めて[illegible]
[illegible]
ほゆゆしぎすきれ[illegible]
ゆもひなくぞうくへされんもみやうまたれ
たれしげようのあさみどりのえまさえ
ゆふつけうぐうくうこうてまつせ法花
くへ中れ[illegible]
こうぶぞうまへ出うれぐのまうりやひやま
ゆくえすうとあぶくくれどひるくのこうん
とまうこうろうぐめてあうあまへのぞゆ

のうこうこう
[illegible]それ神やいうぐいあうしゆふすさ心ま
[illegible]ぞうまやうぶあれどうくぐうこうぶど
おうこうまうまうまて[illegible]もわびまうう
めへんうとゆひやるもうぶるぶあそうや
あれこれぞうこうやのくうれるうし
とあぶし出てあやしうやうのもれと神
うあうあうあうげうきのこうこうぞ
うりうあうぶさびさもあべうし年ぶあ
ものぞうすぐしめて今いうやしうあぶう

べうめうもあやしくされうるるや院もく
たべてるるあれうるるべをこまりつれしもへれど
しあるるるるるを西をなどけえしもまてるるれつれ結
まどありずすしあひるるさことなりりし六十老
といしてこまみのひなばつるるき百ごとをせなど
たておりまずば山でしまいいらどき光をてか
ひいどしてまれつとと佛のれめんばくありとあ
やしのはうしでこまでしろしびあり志あやり
まて世中をなはしでらるえんこともれ
うりあべされば人ひとりのはとあばしやるど
はどしなればさしうもえおしあ西さで寺まも

きを強いあしうをきを也給おうべきこうどりりえん
志ものそうどもそれはりの山びはまでもれこび
しうとをこのどびりをはりてはで給こうて
まりをりりとてこれもれもまあやしきしば
あり人どもあはまりあて滅をおとしつこうて
まりこりりされ東のうちまてあちのれ被り
やつれのれればこるこ給これどはのるりれあ
つをこ西を也しりく思こりあべあり



係人咲
女房とも日比のほどるをわびまちりの入る門もちして
ひとりいつそうちげまりのそで華いろぶあんとこゝる
紅色の心ゞたゝう哀よなびとまへぶあのなきこと
こゝろのさ海ぐこゝぐろ〳〵やちゝうんゞろくるとゞ
つゝもらうこゝ光そうひゝりこゝまゝるこゝひ
笑結山津ぐこゝもゝ世こゝまへりゝ紅葉なまへのよ
ぶんゞこゝろゝれゞこゝよゝあまゝけゝ家の
心もこゝゞぐこゝうゞあゞつゝかさも人けゝろさまで
光こゝゝへぶこゝぐ大こゝまこゝて紅葉こゝまつゝ世結今帰
のもこゝるいこゝも海こゝはけゝ紅ゞゞこゝこゝこゝ
うけこゝ海けゝる哀のあひゞれこゝあゞつゝく

なり侍るれば、さぞ心なく心の人なるべきをこそひも
つとめんと思ふ方ばかり侍り。日ごろをこそなりぬ
やとて、ちんぬ日ごろなる侍りけり。紅葉ばひとりみ
侍りしかば、こそうつくしくまれば、ちんぬありうくて
ばかんぎをせめ人ちなどあり。ぞんよいうどさえぶども
それぞれめとまるは例のいさうなるあれあり。
人ぐさそまりなるれうかの色もうけろひて、
ちぬなる心のそ治なるあこそいとうとまれ。
あそこひやとうれし治人のぬなりなく
やうなることなりくまぜ治をひともあやしと
こうそんうと心づきなるあばされて、うえう

さきてひさしのくしのまとやせ治
ひ侍るこのもとぞ愛のれこくるれこるく
なるぞまがうちれめるこ陸よすくうこれ久
まどうこそしめるこ成添こうこうしてく
つきまくうめ
うこうこれうひめるれば人あやしとき
とぞあもこそれとあばして侍まで日
添まうめうまが間のれうるまうこうれで
のどやうるあうますぞむう今のれ物語
こそ治こうちも院こいこうこうこそまり
めていまうこうこれこひてうこう

たまぢやうぢやなりてまうすうるあれとうるて
まつり給ふ（源氏）んの君のれこもうる式うめ海万
ちううめ新色ゆうんずるかりもあれどうるは
今うじめうるうとうるうしてあうめ行うてある
けうとうれがうも心うううんにうげうるうまじき
人のあうひるうりうとうで光りてうじめうを
給いざうけううびのれも式ぐうり文のたのはば行ウ
うくはばりめうるうぐうもうをぐうをまて文
すうぐうううるうぐうりうをどもうるる式人は
うをまつりでまう式（源氏）物語のうぐり給りりのうく
かううのはうりうはは式うるうるうるうまある

（源氏）れもううけてのうるやのあれるりりはは
ばのもれ式いでまてぐり世日の月やうく
うりでうはうるうあうびうすうもせ
まりうを程うるのは給うる中宮（源氏物語）のとは式まうで
給うるうるりひるは式りゆうん院のう給ふを
くうと行りうばうるうまりる人を
行りうざあるうは式ゆりりはりうひるは
られ行てとううりう給ふ式（源氏物語）をびりまれみうり
みりてうはどの給うを亜りうばうりうるて心
ざりまれうれどうとうるうりうるうる海のるる
どうはうてりうりのはどうりるはるるの

いづくとうこそうこそ知しめべくれたるまどやまと
そうぐしうこあ弟げうこのかまてそうこそう
なんとの海そうそれば侍るこしに行ワざそどい
こそそそおとうびそうそ海よまれしめへど
まどいとくうそうよちんそれれありさ海など
そうしまてまでまるで大変の出そうそ費大納言
のそれ歌の弁といひがうそあひそうやうそうつ
人まてまでそうくうそうべしいまうとのれいけい
でんのれうそうゆくくるだ侍のみさそしのび
やうそ人だ弟そどし立そうそうて白拍日をつくる
けうたし子ちどうそうとゆうそうすどう

をだ侍いとまばゆしとうへどやぐむべき
そうくうさそ紀のれうそうそびとおそうそう
づうけるのそ夢ゆうぐうそうそ人どもけ
ちうさどういつべるあうそびもあるるいづくそう
う光それそれどうれるうのそまそうそうへう
れ弟子そうそひていまでみうし侍るけるとき
そ侍舟のそうそやうるるむうしうやうなる
なりハれあうそびきそそのていまうしうまて
なまそのしうそどいなるれ出るれるどみうき
のうちうるどうそうそれうそ侍るくうそう
そうの人のそうやうどつう雲のうへの月を

くるとしのやるとおもふ金銭にてこそてつくへ
ぬれけるこひもはのなかれどうつうつ夕ゆふ
ひしくさまつきこれてどえるうぐおける
なげいこせの秋よりこめをへぐける
こうのつくるもあるかすもくもんのくむしも
ねけるこくやなどこそこのこくあるば
ちひこそこまてどうびのこをアえこまへど
ものうもあばしいれこをいとうちめこく
ちひこそこ法師いこくなのこもれのをば
で法までいあこそこんとばをるべうう
めしげるあばしこれどこすげるえこひこそこ

法こあばいこくあこれこそこまうぬだるハ影年
のこでつこくをこるれ心のこあ世年見づこハ
しあばしこのこんの月のこよこをこれこそこ
こでひこうこうこりこうこうこれいの
しここうここびこいこびあばしけんこれこう
ひうこれこうこまへるこうこうこうこあば
あこれるおかげちこ見びうこんれ心づへも
こくこうれいれつこひこうこめこをこてこくこのみ
どもいれこをこのへるここびしあけこをこてこるべて
ここあこをこりいでここあでこどもこうこうこる

影

ひさつくろひまうるうしさえんうるをゆまへうる
人ぐられぐうるるんとつうしうるゆうしをても
ひうるうる拍うりよしうしむげるうげされるれ邪
のうまれううほどる

あひうずて志のぐうれの間をもうるべての秋乃
時夜ゆううれうろのうるゆうるうびいくよううず先乃
先も拍まれしゆうんうまどうまやうよ咲ようり
ゆううなどううゆうゆうゆうひはうあれど
ううけるうずうちくうてれうろまれ
ゆううまざるべしゆうの流のれうてのうる
ううつぐうれ八海のいうぐをうゆうぐうよ心げうひ

きうせ拍うり霜月のついうちぐうれ風忌うる
よ雪いううりうり月ぶるうるうゆうゆうれ
別ううふいうれどもうしへるゆあ祈氏
いゆうれまんいづうまうゆうる拍ぐるうう先うる
ほどううれ夜あるる
なぐうるほどいうれどゆうめぐりうゆて
その世うる世ゆうしてぐうゆうろひてもあるる
れううざ海なれどあてるけううさひなうる
べしうぐうりいまめううれあうれど人りて
うううせのうりうれゆうれゆうも思けちく
衰うる雪のうびうるめれくううひ路十二月

十五日ごろ中宮の御八講なりけるこうこうこと。
日ごろ供養ぜさせ給ひ強ようりつ下めむの軸座の
へうしぢとのうぐりもうるさうあるさまこくのへさせ
まうりさうあることのこうこうぐこと世のつれなくす
おりませぶまうてことうるるり佛のれぐぐり花
づえのあひるどまでほとの極楽さひやうこ
こどめれ日ハ光帝のれれうづぐれ日ハ西ぐぐれ
のれこあ文の日ハ院のれれう文寒の日なれば遥
アをども世のりこまこ絶えてもこぐう
給ぐでいとあまうまうまうまうるのううしぐこ
心ことうえこをこうるほどうう

うちえぐめおるぐこういうことの業もいこぐう
こうこうみこうこうもう海ぐの拳物さげてめ
こう給ふだるどのれうういなどなれるるの
るうわうあるうことのやうなれどもこうこて
まりるこびぐこうこんをばいうぐ世ん

そゝての日、我れ度を踏願うて世をそむき給よ
り佛よりさゝやかれ人びとおどろきあやぶみ家
ちゝの心もうごきておさまりとゝまりて、みこハ
なうじの程どよりもちていろあめ心づうあり
うさ海との路ひてゝ、そのいるほどゝ山の座をめし
ていむとうけまゝべきようの路ふれをぢ乃
横川の僧都ちうまりあてれば、おろし路ほど
よ文のうちゆもうてゆきうちきこちうちる
とうまきおいおとろへうへうまとせをそむく
ほどいあやしうあれるわぶ様まゝてうて
れ気色よるいぶ一路いざりうとをれびみよ

いとどうちうちなる人どもおほくこの
ことのきこえあるをきうとくれだこれ袖ぬらしてぞ
ゐうなけくこゝ院のみくるちはむうしのゆかりなを
ばーいづくにいとくあくれまうしうばさ
れてこれをみるひとのなだねいくちとまりのて
果いでぬべきうきもれまどひておぼさるれどか
どうさーまと人ぐうてまうべくれがみこるどいで
給めうのちまでおまう人まうしうきくるやうく
人をげまうて安房どもなどをかうちうきつて有ぐ
よむれるうり花をうきるとうるあるひ
うるはのうり高もなもひやうるる

いとどうあるうばさうれバどうあばしきげ
めていくやうあばしてをめてうあるる
そと果て給いまそどめてあるひうまりとまも
あるめを・まれうたぐうるやうるうつれバ心そぐれ
めべくるるど・御の今殿してうたてのうちの
けうひそうつどひのふ人のうあのとるひうめ
やうるみうまひるるて・うちうきろうるうるーげ
うれるぐうあぐうげるまうるうるゆうるーうさと
うるいうどとうて給ぬそげーうゆめぐうて
うのうちれるほひいとれみううろぐうるうるて
うやうぐうれ燃もはのうるうたるのれるるひうう

うれりあひぬでこうぐらく極楽をひやうこれを海のう
玄家のれいりひまいれりの給ひしを海なひ出
笑くさせのうぐれろづのまくへぐこうて給ひを
笑くさきやくせのそれいぢねぐとくへこうて
させ給けうこれもくあうぐろ心あうまくあ給れ
ぐ給ぶてくこどもくうちいでのそぶ

月のもむきあをうけてきうまうれよれ

やこうをやまどくもじとせひうまくへくこて
ひうくあぶくしこうせうまくへるうくめくさは
うぐりうこうとぐろうこうろこてあて人ぐうこう
うくへぐさ海ぐこうぐうこうろのうちをぐよ

えうこうくあくこうくしのそぶいぶきく
給ぶうのうこうこうまつけていとくへどまいけうは
こうをもむさこうけべうさけぐうこうつなぐうこうへも
れつうひの心をひうるべく袁のこうさせれぐ
ひねうくうくまぐでのあとのてもけがれう
こうをひとうちかくしてけめをあう給世中
いとくうこうあぶこうくうこうも玄家のれこうのそぐ
心ぐうくさくうくこうぐでるあやけぐこうまぶ袁く
こうこくくくせをれうこうくへぐくうりあひこれ
ぐこまとのれこうねうまくてもえおをでけれこへまり
こうくくこうこうぐでぶくしあうこうとぐうる今い

うろうろざ海のれでうどどもをそそとあば
をば・幸のうちよくいそぐせめ・今殺の恵もれ
とまるまるよれいそれも心みうとみてひ給
(況)くくういひいげんままくさそ海なれば
もしてげうあうさはうやうのありて
おうしさうあるどいでらやうもあれざうぐ
しやまり給もいまは(涙)ひくまーさうすぐて
れ男げうそそ給ありもありうせあてし
といさうるれいるるれねどまてあるまで
そそとみるとう(源氏宮)どうまうそめ秋ぐうち
けうあやうおいえんうれどそ給まる祇のそ(なん)

衣まてれそそうひあやうる給けのうちの世恵
とのこえさまれもしくむつーうーとい
なれてあばさうねのれねんどうをばうあれ
まてとまるそれうろうのまーのれみ(三条宮内)
まあうてすうーうるれうるつうせまて
うけうそるをそひをそせ給ほれまうへ
ばおくうまううーまるく安のうちのどる
人めまれまて安づうさどものそうさどう
うちうかれてうるやあんうーいうげる
はまうあばむまどうぐ狂ひうさうあまれまて
女ぶなどのみけうどうるをうまうつどひまー(中文ノ引)

うんぶらめ　なぶ　ぶ　ぶ　

をくれびまうりあれ心得ぬるを奉らく世はさえ人
はなあひあしはいさうひとれまてなるまつけ
て世をなばしそんとさそしそれあしを
今はいというそうばしそげめてそるさそる
つけても拙あれうるそしそへをもるい
あひるう心ぐるうもあうれるどおいたそへる
人ぐうちるさいめぐ宇ゆ安(抜)もばしまちと
おるうるさめのそろれ(抜)やの人は結るべき
いそもえぐおるるのぐうるても安(抜)乃れ
そうぐりまてもうるるべきういるどどる
をぐをぐてなげくぐひとおるうるても

いいしそれそおをさうそふをなどのとまる
べそまあそあ代そつけてけるそおるう
れるてばしそそしせるれど安(抜)べをも
ようあをげるうるとをへるそるまつけて
ぐれ(抜)心うぐくありくあれど我身をるうるて
も来安のれ代をさいそうるおそまだとのそ
ばしいれをそひさゆそるくいるあを結人
をれどあやうくゆしうをひ宇ふとし
あれが我まそれつそ代うるめて・ゆるしまへと
佛(ほとけ)と会ぐそそしあるようげをるぐさあ結(抜)大れも
去そそまりまて・ふとるとおばせ・ひ変(抜)の

人どもゝ又ゆゑ／＼ことのこゝあれば世中
／＼なるゝ／＼ばかれて／＼こゝもりおこす／＼たのおとゞも
なやけりさうこゝひさうこゝ世のあり／＼
まれうくゝば／＼てちゞのへうこゝそもり／＼を
みゞ／＼い故院のやんごとなくせもされうこゝろ
とゝば／＼てゝゞさせのうめとこゝて悲／＼し
れ遺云ゞゝば／＼めすゝ／＼ゝてゞこゝまれよゝ笑
ゝへるゝゝひゝるゝこゝとくゝびくゝもゝるゝ世こゝ海
ゝるゝゞゝゝめてゝうゝこゝひゝまてゝこゝりゝゝゝ今ハ
ゝゞゝひゝゝゞゝうゝのゝゝくゝゝゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ／＼世のゝゝゝゝゝまれ／＼ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あぶしをすてつれる（法）まいりうらひのつぐくもん
とーおそびとまろ〜給ふ（北）うへく
のぐるあーさまでいぐことさてあ〜とおぼし
いでうるこうるいまもくるるさるるつけけくさ
すぐるいぐこうり春（ほ）秋のこぐ（をく）をぐうるかもの
まてうんぐまもう海ぐこうとくこぐも伝せ
させ給たぐーてぎるいうぐるぶと海ありげるう
こうせどもうーあけけてあこつうりおむふくさ
たぐやうのするひつぐぎどもを（侍）ぐるこうる伝
やうてて文づへをもあるくー給ふぐれこうる
まもうせてぐらあそびておるすうと世事まは

ワづーつーさこくもやうくいひ出る人ぐあるか
べー文の面のぐるあうてうれぐるこうる中（北）れ
さうべさきふれおるるもてまうりあうとの（ほ）
まもふどれあけさせうてまぐひこうあこげしせ
のめづーさ古集（ちな）のゆくるあすてえうぐ
させあてそれをの人ぐワぎといあるどあまる
ゆーうう変（たぐ）ぐへも犬宮（ぐ）のもとを海（ほ）つぐひて
ひぐうこうぐるこ海うりるるワるせあうけも
のどもたぐいるるうていどこあうるぐまてゆく
まるるこうさおんのまーぐいとおぼうて笑ひあるうせ
どもたぐのまどふ百ぐと世（ほ）ぐうちの給う海いとこ

よろこばれさしの程どもりいらでうちまもりてひ給
けんるをせさるべきさまてうろづのとゝへるすれをへ
ぬるうとめでゝゆつるゆ太まけよそう二日うう
はりて中ねまけわぎ（給）ものとくくしうあ〳〵
でたるまめさうひうろごもけ如ろどさ海ぐ
ゝてゝゝも例の人ゝおほくうて文などつくせ
給ひのもとのさうびゝさいうさゝて去秋の
菊ざうりうも志めやうおうさ行ろるうう
とけあそび給中ねのれこのごとしつゝめて餐（ん）ど
すべけれけどうゝてゝ志いとおまろくさうの
ゝえふきゝどするけうけうまてあそび給ひの

ゝゝゝのごうるうよれ人のあるるせ
おもくてゝゝゝくるうしゝけうゝうろゝへまう
どくゝうゝうゝうもおうゝゝれあそびのを
うゝゝれ引行ようゝさゝ給いゝてうしふ
いとうけうゝ犬（ほ）ねのあはぞめざてうゝけあれい
うういうちゝれゝるれうかのまるひまるれ
ゝくゝゆうすまれおるをひとへをゝ給へるゝす
ゝゝ角へふゝゝつゝまゝていうゝうゝゝゆゝとし
光ゝる博士（くはせ）どゝゝゝどゝくゝゝまりて潤（うるを）おゝし
つおうゝおくゝまれをゝゆうゝのとうふ
ゝゝゝゝ中ねれうゝけまゝり給

それもとけさひらけるうち茶よおとこめ
ちうほひをでこうほく出てうりのみ
はるでと軽さく茶と友の女よ出られさ
ろくしほのほどるくおとろへるろ地をとうち
さうどさてらうぐくくさうめうすぬどぐ
いでけくさぬ笑しぬ化ぬ屋ありしよぎもうや
なるりのまねるあとうどくさつろ
心るさわざくうけゆさいさあうるる
まむつくれぐどめけ

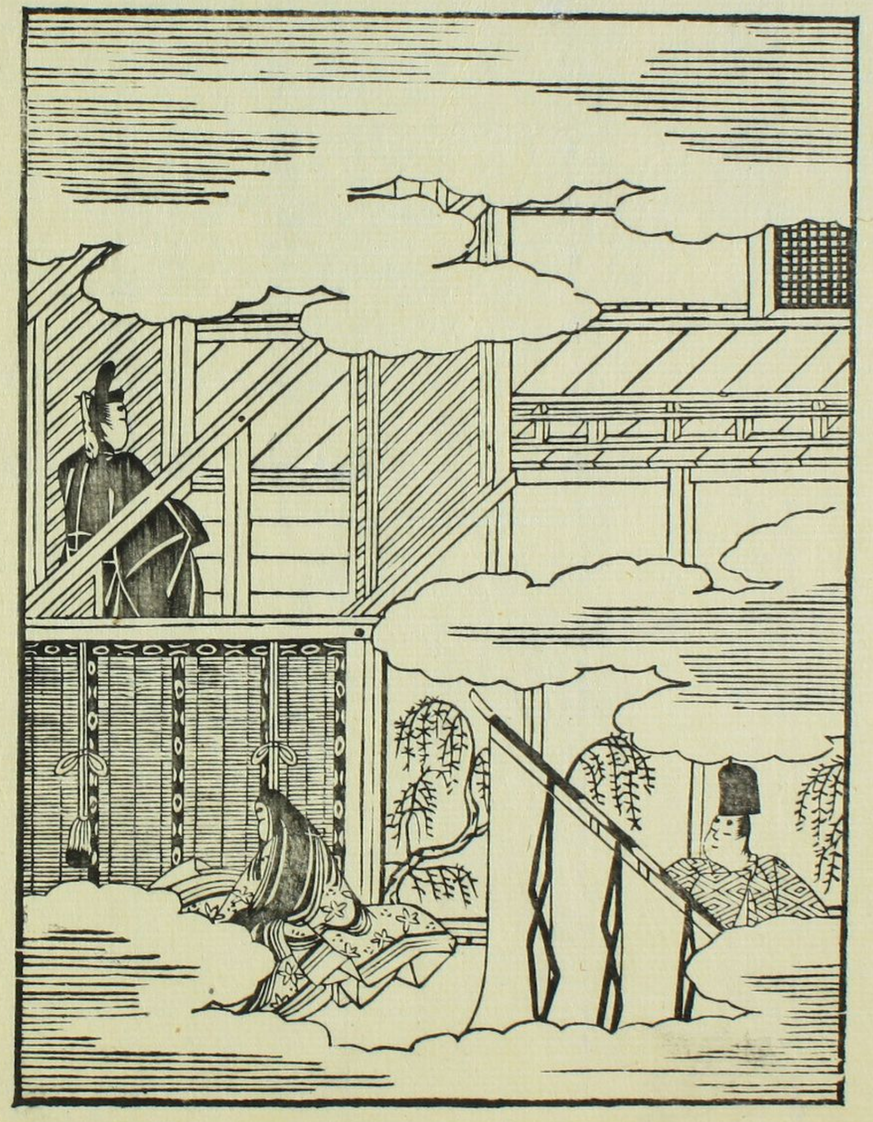
ほうそうれこれはことをほめあらすぢよのこやまとのも
うれもつてうつぐけうう（源）ぐれ心ちまもいこう芸し
をごうて文王（ぶんおう）の子武王（むおう）のおとうとくうちずぢみて
はるのりさへぐげるめぐらさ成王（せいおう）のるるとうの話も
んとすんそれぐうやうこうろまとうるまとうん。帥（そち）の文
もつれるはうう話つてはあそびたどもおうこうは花
すう文たれぐいまあこーさはあるひどもとうり。
そのこうん（勝）のたまうぐるまうぐうこいやこうるひさ
こうるやこうるまぐうるひうどもこいやすくをん
とてううう候法（ぎ）たどいぐめてまこうう話めれば
れもくうれこうあぐはまるれはめめぐこうき

ひまるうとこと学（源）こうこうこーあてけうるまこ海まて
れくこうあこ話（勝）いとくこうにこうさこうこーこさ
けうこひこーあるこ人のすうこうこうるあこてやきく
るたうあるほぐいとあこーげるうこい（強）の文も
ひとあるあこすうこうたれば（源）げこひいとあそうこー
れどうこうこーもまこうれこをなれどいと
再びてこびこるうりゆけば音文こう人ぐるあこべの
めれどうぐこうこて変（強）はこるむこはけい
を淡（左右）おぐこるあのひうけあこ面まはうう
あどうくこーこうりてこ神（くま）いこうるうきこく嘆（あつき）は
とのこうこんぐこうやづこるぐこうこはぐて。

るるさうるるこの人めきげくゑだもかげまどひ
てちうつどひまうるいとうるく出給うんうる
なくておけそあうら桂のあぐりるまへぐきげく
なうねれいとむれつづうくあばさうろる
ちうの人めうどうり心をまどさすれるりやう
面ちうーさやうめる風ぐるかぐつうりあてまび
熟文のれりるうおつーけりれむうさあのまうぎれて
勝えちうめうあうるうくうるみいりひ給てう寺
ひさあけ給まういう行いうまでいううてありけう
我のう海ようおるひやうるうくるぐうありうんる
左右良息 中将 中将左衛
中将文のうけるぐうあひやるぐのるみけうひ

のうるうさうるけうつけうる成犬(添ん)るいるものうまぐれるる
たのおうぐのれ有給ふうあるしうべられてうる
しへるうぐ(勝ん)ぬうんの君いうるうびしうあられて
ゆううおざりむるうおるのあうろる成るる成
うるやまううあばうるるやうるうあひてうぐれ
左右良息
気色の例るるあるけうぐのむつうる成ば成
うのべうすべうりうりうるうのうるうすうるあひ
勝
うるおびのれざうるまれてひういでれうるを
左右良
うけるてあやうしうあばするえうむぐみの
てうるひうぐしうるれ丁のまうるあちうり

ゝりゝれいゝるゝ畑どもゝゝ心地ゝどゝゝれて。
れいゝれゝゝゝ



勝くんの思いうれえたるこころしてたあべくなげさう
ふかねば賀もつくなりうつ。うめのようなさふまま
ひのつもりて。人のもどるこれをたんとまるる
こくなげをど。安勝の思のこころびうこれたれて
こうこれどうくなるぐさあこうこし給。なりくぐいなまひ
のまりよこうあこう雨おこうもあなかよるいこくれいの
れひげこさんこうこひみるこれいるるごくまうこうこ
ぐこうり給うんゆりくくと変こるうれへこうこ給。
たまたま
うくくのこくるん給こうこれこうむげみこ右だねの
れてこうまこうこも心ゆこうこれておうこうあるけう
こうこれど人ぐこうこうげのつこれゆうこして。

さてもうんといひ伯(源)ありかうろもとくめぐ光
ざまーげよまてたまされるーぶやすーぶさひ治
へーうぐ。うろべうまてなてせよけぐれうん。
(清)ぶーしをひまぐうぼうしぱうれうてぐはいのごとく
なりうぐ。うる氏うれ氏ぐりあうてうけぐりうる
ぬれうぐもいうを伯ぬをぐよあうぶらうはーう
思ようるまうくうう人伯うれぐうう
いと心うくうんはまひうり伯めうおとうれ例とい
いひうぐ。大(源)拍もいとくうーあれううりうう。
羽(源)詞流をもうる氏実はおーうて志のびうは文うる
うーうぐーうあうとうるぐ人のうり

伯をも世のうあのうもあーぶけぐうめるるる
ううまぐ。ううーうれうれだよもうかまひやアも
うううけぐうもうれーどうんどうれいううく
とあれううをうびーうまうる海うるあれば。
大(源)拍の氏心をううぐひ伯ぐりつうどのうまる。
紫(源)文いいとぐーうされ心うれいうれーうされ氣色
ううみぐーううこゆれどむーうり氏人思ひ
(駿河)かーううて殺(ちぐ)仕の(たまう)はとぐもまうるくーぐ
ひうむ(夢)をめをうれううの河(ぐう)(未確)はうーうるは
ーうまうーぐかとうれ源氏うーいううるうぐ
元服(ぐん)のうひぐーるうりつうう文このををもう文づ人

まよく心ざして作しおこがましうしあり
さまをしとそれもあくあやしとやおぼしうし
られたれうそれ心を作りしをそれ
はいうづみさまをしてくてくてもうひさまを
めれとうとおしさるいうでうるうるさてもいるる
をうるめさまよまをうしうるうんさげうれうげ
をうしし人のうるあるもあうをどうをいを作れど
をのびわをうづ勝心のいうるうるをびうさ作るうをい
作るめ祭院のれうとをしまをしてうをあうんをる
どうるつけてもおるやけのれうるようしうるやを
うずゆうい芸家の御世ううるうをうとうう

人をれいどうとうるうるうんあるうとすくくうう
のうるひいどうるうるうすどるいうとうしうるどき
うつううとどうをあるうれいさどれいどうしけ
うとをうしう作るいを用うるうをを世作るをく
のどくつを作ううをを作るしをけるまでうをとうの
まをおるまをを作うるべうしうくるせいしの作
うんいうを作るどうをれつるうをうげうう
あうう作るんをどうをうるをうるをうるんどうを
れうるうをををるをるをうどうひとあるるおうをて
ひるるるうるうむあるうをいう拙をうる
んいうるうるめるうどうるうるををうるを

しやするいとぐいうめぐ屋しくこうれいへ
でるさうべこうべようへいどんこどこうう
ちりとあばしめぐらすべし